様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ８ 月 １０ 日現在

機関番号：８２４０６
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｈ０６８７１

研究課題名（和文）被災地域に暮らす高齢者の健康支援のためのコミュニティ・エンパワメントモデルの開発

研究課題名（英文）The Conceptual Structure of Community Empowerment for Elderly Health Support According to The Disaster Cycle in an Affected Region

研究代表者
早野　貴美子（Hayano, Kimiko）

防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究・その他・准教授

研究者番号：４０７５９０３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：【目的】大規模な地震災害により被災した地域住民の健康を、自助と共助の観点からプロモートする“コミュニティ・エンパワメント”の概念構造を明らかにすることである。これまでの経験を抽出し、看護実践に活用できる知識体系の可視化に取り組んだ。研究方法は　文献データベースおよびフィールドワークから得られた要素を、研究命題の３つの要素に基づき看護活動を抽出しコード化、カテゴリ化を行い質的帰納的に分析した。【結果】270コード、47サブカテゴリ、12カテゴリに整理された。

研究成果の概要（英文）：[Purpose] This study aimed to elucidate the conceptual structure of “community empowerment” to promote wellness among residents of a region struck by a large earthquake from the perspectives of self-help and mutual assistance.[Study methods] We used publications on disaster nursing as a database and field work factor. using the keywords, “disaster nursing,” “public health nursing activities,” “community,” “health support,” “sanitation,” self-help,” and “mutual assistance.” For analysis, we extracted nursing activities based on the aforementioned 3 elements, which were then encoded and categorized to perform qualitative and inductive analysis. [Results] The literature search yielded 37 publications. After analysis, they were sorted into 270 codes, 47 subcategories, and 12 categories.

研究分野：地域看護学

キーワード：エンパワメント　コミュニティ　災害看護

１．研究開始当初の背景

本研究のテーマは，災害を受け被災地域に暮らす高齢者を支える健康支援事業展開のための,コミュニティ・エンパワメントモデルの開発である．本研究では，被災地域で暮らす高齢者の健康をコミュニティで支えるという“共助”の概念に依拠する．被災地域の住民らが健康問題を認識し,健康生活を支えるコミュニティ活動が定着することをねらいとし，地域住民のエンパワメントを促す保健師,看護師等の介入プロセスに着目した.

２．研究の目的

本研究は，被災地域で生活する高齢者の健康支援に関して，地域住民が問題意識と関心をもち，コミュニティとして介入するしくみづくりを目指して，「コミュニティ・エンパワメント」に向けた支援を行ったか，その介入要素の構造化を行い，エンパワメントするしくみを解明することを目的とした.

３．研究の方法

本研究の第１段階は,研究命題の主要概念の抽出および妥当性を検討して研究命題を設定した．第 2 段階は，被災地域の高齢者の健康支援を地域で取り組むためのコミュニティ・エンパワメントの要素と構造を明らかにした.

データ収集期間は，平成 27 年 11 月～平成 29 年 3 月とした. データ収集方法は, 第 1 段階においては, 自然災害における医療活動に関する文献データベースに基づきエンパワメントの主要概念を抽出した.

第２段階においては, 2011 年（平成 23 年）3 月の東日本大震災における被災地域, 宮城県, 福島県および, 2016 年（平成 28 年）4 月の熊本地震のフィールドワークおよび各被災地域の医療活動支援の活動記録から被災地域に暮らす高齢者への健康支援に関する要素を収集した.

分析方法は,データマイニングの手法による IBM SPSS Text Analytics for surveys のツールを用いて分析した.

４．研究成果

本研究目的は，被災地域に暮らす高齢者への健康支援に向けて，どのようなアプローチによりコミュニティをエンパワメントしたのか，そのしくみを解明することであった.

第１段階において,コミュニティ・エンパワメントとは，地域住民の相互作用に基づくプロセスとして導かれた. その主要素は, ⅰ）コミュニティ・エンパワメントを支援する看護職者の介入要素, ⅱ）コミュニティの環境要素, ⅲ）地域住民の要素であった.

すなわち,コミュニティ・エンパワメントの研究命題とは,“被災後の高齢者の健康支援において,看護職者は,地域住民を含むコミュニティの環境調整を図り，しくみづくりからコーディネートし,高齢者である被災住民の精神と身体の健康回復・維持増進の行動をプロモートする”とされた.

第２段階では, 研究命題に基づき, 収集されたデータをテキストデータとして, 要素の抽出と構造化を行った．分析の結果, 270 コード, 47 サブカテゴリ, 12 カテゴリに整理された. 12 カテゴリは構成要素が説明する文脈に基づきマッピングされた. その概念構造は,【地域の風土・規範】【時間の共有】【情報の共有】が基軸であった．その上で,【健康支援に関する資源のアクセス】【コミュニティ機能の組織化】【健康支援者との友好的関係性】【健康回復の実感】【コミュニティへの参画意欲】【健康意識を育む場の形成】のプロセスが抽出された. 災害サイクルの過程で拡張することが期待される要素は,【住民どうしの信頼形成】【地域への愛着】【生活の安全と安心】であり, そこからコミュニティ復興活動とともに，住民自らの健康生活パターンとして定着する傾向がみられた.

『被災地域に暮らす高齢者を支える健康支援のための,コミュニティ・エンパワメントモデル』を説明する 12 のカテゴリについて,

文脈的背景を含めて意味するところを以下に記述する.

被災地域に暮らす高齢者は,長年生活してきた地域社会の自然,気候,地形,家屋とともに自らの生命・生活を築いてきた.そこには文化や伝統,しきたりを大切にした生活があった.被災により家族や友人,仲間との別れ，損壊した家屋,いつも目にした風景が一瞬のうちに違う光景となったことに大きな喪失感を抱く.その中で守りたい文化・伝統やコミュニティの絆を頼りとし，時としてその気力が萎え,ふさぎ込む,悔やむことを繰り返しながらも生活を立て直す気力へとつなぐ.その力を支える看護職者は【時間の共有】【情報の共有】の場づくりからコミュニティの活力の糸口を見出す．【健康支援に関する資源のアクセス】は高齢者の身体的機能をアセスメントした上で判断される.行ける距離,行ける時間は,集う場を選定する際の肝要な視点とされた．その場に行くことで,仲間と出会い,被災の辛さを分かち合い,共有する時間の中で生きている実感と生きようとする力を自ら感じる.看護師,保健師がその場にいることで,日ごろの会話から健康への意識づけがなされる.【健康支援者との友好的関係性】が育ち、時間の経過とともに【健康回復の実感】を得る者が増える.【コミュニティへの参画意欲】が高齢者を支える住民も含めて高まり【健康意識を育む場の形成】がなされる.そこには,コミュニティの人々,風土,文化,仲間意識と馴染みの場から【コミュニティ機能の組織化】が生活する時間の中で育まれていく.災害がもたらした健康危機に対して【住民どうしの信頼形成】【地域への愛着】がコミュニティの結束を強くする傾向があった.また,危機的状況の渦中である災害急性期においては,【生活の安全と安心】を求めて日々を営んでいた．安全と安心は，苦難を乗り越える力，生き続ける力，この土地で生活し続ける意欲につながる原動力となっていた.

今回抽出された要素を総括すると，看護師・保健師が果たす機能には，コミュニティの組織化を促進するためのサーバントリーダーの要素が多く含まれていた.すなわち,コミュニティをエンパワメントする上では,率先して指揮をとる牽引型のリーダ―シップではなく，影の力となる支援型のリーダーシップが必要であることが分かった．コミュニティに暮らす住民が主役となり,高齢者を支えるしくみがコミュニティの中で根づくことがエンパワメントのコア要素であった.

災害の種類や地域特性によって健康危機の様相は多様である．しかしながら，今回抽出された概念構造は,コミュニティをエンパワメントし健康支援を組み立てる骨子として活用できる構造基盤であると考える.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計２件）

Kimiko Hayano
Considering educational materials on disaster risk management for use by public health nurses-Identifying elements of post-disaster intervention and involvement in community care systems

学会名）48th APACPH Conference ｜ September 16-19, 2016／Tokyo, Japan Teikyo University.

Kimiko Hayano
The conceptual structure of community empowerment for health support according to the disaster cycle in an affected region

学会名）20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2017). Hong Kong. March.9-10, 2017.

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
　なし
６．研究組織
(1)研究代表者
　早野貴美子　Hayano Kimiko
　研究者番号：40759031
　＜所属研究機関＞
防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程
及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究
部局：その他
職　：准教授
(2)研究分担者
　　なし（　　）

　研究者番号：

(3)連携研究者
　　なし（　　）

　研究者番号：

(4)研究協力者
　　なし（　　）